

C-36 被服構成能率化への基礎研究(第2報) I式胴部原型の自動化について
羽衣学園短大家政 ○井手エイ子 奈良女大家政 水梨サワ子

目的 第1報につづき、被服構成の能率化への基礎的問題として自動製図をとりあげ、適合度の高い胴部原型プログラム作製を目的とした。

方法 自動製図の基礎をなす体型把握について 胸圍線上の長幅示数を採用し、被験者51名の長幅示数をもとの、Rohrer示数、Verwaack示数との関連を検討した。次に長幅示数の異なる23名を被着用実験者としてランダムにえらび出し、稀布に紡じた原型を着用させ、得られた補正結果と体型との関連を検討した。

結果 婦人服における胸のふくらみの程度の違いによる体型変化の把握に長幅示数もかなりのきめ手であることがわかった。補正結果からは長幅示数の差異による体型の特徴が顕著にあらわれなかつたが、I式割出寸法については一部補正を要したのでI式胴部原型プログラムを修正し、現段階における適合度の高いI式胴部原型プログラムが作製できた。